

○上越教育大学大学院学校教育研究科履修規程

(平成16年4月1日規程第72号)

最終改正 平成30年3月23日規程第10号

(趣旨)

第1条 この規程は、上越教育大学学則（平成16年学則第1号。以下「学則」という。）第64条の規定に基づき、大学院学校教育研究科（以下「大学院」という。）における専攻の目的、開設する授業科目及びその履修方法並びに研究指導の方法について必要な事項を定める。

(専攻の目的)

第2条 大学院の専攻において学生に修得させるべき能力等の教育目標は、次の表に掲げるとおりとする。

課程・専攻名		目的
修士課程	学校教育専攻	臨床的視点から幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校等における教育に関する理論と応用を教授研究し、広い視野に立つ精深な学識を授け、教育にたずさわる者の使命と熱意に応え、その研究研鑽を推進するとともに、初等中等教育の場において教育研究を創造的に推し進めることのできる能力を備えた有為の教育者を養成することを目的とする。
	教科・領域教育専攻	教科・領域教育の多様な視点から学校教育に関する理論と応用を教授研究し、広い視野に立つ精深な学識を授け、教育にたずさわる者の使命と熱意に応え、その研究研鑽を推進するとともに、初等中等教育の場において教育研究を創造的に推し進めることのできる能力を備えた有為の教育者を養成することを目的とする。
専門職学位課程	教育実践高度化専攻	教職に関わる精深な学識を授けるとともに、理論と実践の架橋・往還・融合を通して、教育現場に生起する問題や事象について即時的に判断し、対応する力量を備えた高度専門職業人としての初等中等教育教員を養成することを目的とする。

(専攻・コース)

第3条 学生は、次の各号のいずれかに所属し履修するものとする。

- (1) 修士課程においては、学校教育専攻（グローバル・ICT・学習研究、道德・生徒指導、教育連携、臨床心理学、幼年教育及び特別支援教育の各コース）及び教科・領域教育専攻（言語系教育実践、社会系教育実践、自然系教育実践、芸術系教育実践及び生活・健康系教育実践の各コース）
- (2) 専門職学位課程においては、教育実践高度化専攻（教育臨床及び教育経営の各コース）

2 前項に規定する各課程の専攻・コースを履修する入学年次ごとの標準の学生数は、次

の表に掲げるとおりとする。

課 程 ・ 専 攻 ・ コ ー ス 名			学 生 数
修士課程	学校教育専攻	グローバル・ICT・学習 研究コース	約34人
		道徳・生徒指導コース	約12人
教育連携コース		約22人	
臨床心理学コース		約18人	
幼年教育コース		約 5人	
特別支援教育コース		約25人	
専攻・領域教育専攻	言語系教育実践コース	約25人	
	社会系教育実践コース	約21人	
	自然系教育実践コース	約25人	
	芸術系教育実践コース	約25人	
	生活・健康系教育実践コース	約28人	
専門職学位課程	教育実践高度化専攻	教育臨床コース	約40人
		教育経営コース	約20人
計			300人

(教員免許状の取得)

第4条 修士課程及び専門職学位課程の各専攻・コースにおいて取得することができる教員の免許状の種類は、別表第1に掲げるとおりとする。

2 前項の免許状を取得しようとする者は、教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）に定める所要の単位を修得しなければならない。

(授業科目の区分)

第5条 修士課程及び専門職学位課程の授業科目の区分・内容は、次の各号の表に掲げるとおりとする。

(1) 修士課程の授業科目

授業科目の区分	内 容
共 通 科 目	学校場面に生起する諸問題に取り組み、学び合いの中から問題解決が可能となる実践力を育成するために開設する。
専 攻 科 目	1 現代の教育課題と学際研究の進展に対応した高度な専門性を形成するために、各専門領域に関わる専門科目及び学校教育に関する広範な専門分野における方法論と教育実践学へのアプローチに関する方法論について開設する。 2 各自の研究テーマを具体化する専門セミナーについて開設する。

(2) 専門職学位課程の授業科目

授業科目の区分	内 容
臨床共通科目	教職に求められる高度に専門的な力量の基礎となる学識と教養及び技能を体系的に身に付けるために開設する。

コース別選択科目	深い学識と教養をもとにして学校現場における実践を意味づけ、的確に判断する力量を身に付けるために開設する。
実習科目	教育現場の状況を的確に把握し、他の人々と協働しながら適切に対応する力量を、学校現場における実践を通して身に付けるために開設する。

(3) 修士課程及び専門職学位課程共通の授業科目

授業科目の区分	内 容
自由科目	教育に関連の深い諸問題，教育の背景・基礎となる諸問題について新しい動向も考慮し開設する。

(履修単位の区分)

第6条 修士課程の修了要件を満たすためには、別表第2に規定する当該課程の履修基準に基づき、所定の30単位以上を修得しなければならない。

2 専門職学位課程の修了要件を満たすためには、別表第2に規定する当該課程の履修基準に基づき、所定の46単位以上を修得しなければならない。

3 前条第3号の表に掲げる修士課程及び専門職学位課程共通の自由科目の単位は、修了要件に算入しないものとする。

(授業科目名，単位数，必修・選択等の区分等)

第7条 第5条各号の表に掲げる授業科目の区分に属する授業科目名及び単位数，必修・選択等については、別表第3に掲げるとおりとする。

(長期履修学生及び教育職員免許取得プログラム)

第8条 学則第59条第1項ただし書に規定する職業を有している等の事情により3年間にわたり計画的に教育課程を履修する者（以下「長期履修学生」という。）のうち、教育職員免許状の取得の所要資格を得させることを目的としたプログラム（以下「教育職員免許取得プログラム」という。）の受講を許可された者は、学校教育学部において開設する授業科目のうち、別に定める教育職員免許状の所要資格を得るための授業科目を履修することができる。

2 前項の規定により授業科目を履修し、当該授業科目の試験に合格した者に、所定の単位を与えるものとする。ただし、修得した単位は、学則第72条第1項及び第2項に規定する修了要件の単位数に含めることができない。

3 長期履修学生及び教育職員免許取得プログラムについて必要な事項は、別に定める。

(教職大学院1年制プログラム)

第9条 学則第59条第2項に規定する履修上の区分を教職大学院1年制プログラムという。

2 教職大学院1年制プログラムは、学則第72条第3項の規定に基づき、実習科目10単位のうち6単位について修得しているものとみなし、当該授業科目の履修を免除された者を対象とする。

3 教職大学院1年制プログラムについて必要な事項は、別に定める。

(指導教員)

第10条 学生には、研究指導又は修学指導を担当する指導教員を定めるものとする。

2 指導教員について必要な事項は、別に定める。

(研究計画及び研究題目)

第 1 1 条 修士課程の学生は、入学後速やかに指導教員の指導を受けて、別に定めるところに従い研究計画を立てるとともに、その研究題目を決定しなければならない。

(授業計画及び履修登録)

第 1 2 条 学生は、当該年度内に履修しようとする授業科目について、別に定めるところに従い授業計画を立て、履修登録を行わなければならない。

2 学生は、科目等履修生として履修する場合を除き、所属する課程とは異なる課程の授業科目の履修登録を行うことはできない。

(履修登録の上限)

第 1 3 条 専門職学位課程の学生が 1 年間に履修登録できる単位数の上限は、36 単位とする。ただし、教職大学院 1 年制プログラムを履修する学生にあってはこの限りでない。

2 履修登録の上限に関し必要な事項は、別に定める。

(試験)

第 1 4 条 試験は、定期試験及び臨時試験（小テストを含む。以下同じ。）とする。

2 定期試験は、各授業科目の受講を終了した者について、学年末又は学期末に行うものとする。ただし、出席時数が単位修得に必要な授業時数の 3 分の 2 に達しない者は、原則として受験資格を失うものとする。

3 定期試験を実施する科目について当該試験を受けない場合は、単位は与えないものとする。

4 臨時試験は、授業担当教員が必要と認めるときは、随時行うことができる。

(追試験)

第 1 5 条 病気その他やむを得ない理由により定期試験を受けることができなかった者は、授業担当教員への願い出によって追試験を受けることができる。

2 前項の病気その他やむを得ない理由とは、次の各号に掲げるものをいう。

(1) 負傷又は疾病

(2) 進学、就職試験等進路に関わるもの

(3) 父母、兄弟姉妹及び祖父母に関わる忌引き

(4) その他前 3 号と同等と認められる事由

(成績の評価)

第 1 6 条 授業科目の成績は、S、A、B、C 及び D の 5 種の評語をもって表し、当該評語に係る評価の基準点及び結果は、次の表に掲げるとおりとする。

評語	評価の基準点	評価の結果
S	100点 ～ 90点	合格（特に優秀な成績）
A	89点 ～ 80点	合格（優れた成績）
B	79点 ～ 70点	合格（標準的な成績）
C	69点 ～ 60点	合格（合格として認められる成績）
D	59点 以下	不合格とし、単位を与えない。

2 学生は、一度合格と判定された授業科目については、取り消すこと又は再履修することができない。

(成績の評価方法等)

第 1 7 条 成績の評価は、各授業科目の教育目標に対する学生の到達度を見るため、講義、

演習，実験，実習及び実技等の授業形態に応じた適切な評価方法及び評価基準に基づき行うものとする。

- 2 成績の評価は，学期の途中においても適宜行うものとし，その結果を学生に明示することにより，教育目標への到達度を高められるよう配慮しなければならない。
- 3 成績の評価方法は，定期試験，臨時試験，課題レポート，発表，討論，提出作品，授業への参加態度，予習・復習等の自主的学修態度その他多様な要素を可能な限り組み合わせるものとする。
- 4 クラス又はグループ指定等を行う同一の授業科目については，当該科目の評価方法及び評価基準を統一しなければならない。

(不正行為)

第18条 試験の際に学生が不正行為を行った場合は，当該授業科目の受験は無効とし，その状況によっては当該学期の授業科目の受験全部が無効とすることがある。

(学位論文の提出及び審査等)

第19条 修士課程における学位論文又は特定の課題についての研究の成果の提出，審査及び試験については，上越教育大学学位規則（平成16年規則第17号）の定めるところによる。

(修学指導)

第20条 指導教員は，学生に関する成績情報及び履修状況等を確認し恒常的に指導・助言を行うとともに，関係教職員と連携を図り，適切な修学指導を行うものとする。

2 指導教員が行う主な修学指導は，次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 年度当初の履修登録に際しての指導・助言（特に，未登録による不利益の防止及び期限内登録の徹底）
- (2) 履修登録の削除又は追加を行うに際しての指導・助言
- (3) 病気欠席等やむを得ない事由に対する履修上の指導・助言
- (4) 授業料等の納付に係る指導・助言
- (5) 学生の休学，復学，転学，留学，退学及び転専攻・コース等の願い出に対する適切な指導・助言

3 指導教員が交代するときは，修学指導状況の引継ぎを行わなければならない。

(オフィス・アワーの実施)

第21条 授業担当教員は，修学上の問題解決に役立てるため，あらかじめ各研究室等において学生からの履修相談や授業に関する質問等に応ずる時間帯（以下「オフィス・アワー」という。）を設定し，シラバス及び履修の手引等に公開することにより学生に的確に周知しなければならない。

2 オフィス・アワーの実施方法は，次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 授業担当教員は，毎週一定日において1時間以上のオフィス・アワーを設定すること。ただし，やむを得ない事情がある場合は，この限りでない。
- (2) オフィス・アワーの利用は，授業担当教員に対し学生からの事前連絡を要件とするものではないこと。ただし，オフィス・アワーの利用を希望する学生は，その時間の有効活用のため，授業担当教員に対し事前に相談等の内容を連絡するよう努めるものとする。

- (3) 非常勤講師等で研究室を有しない場合は、電子メール等により相談に対応すること。
- (4) 授業担当教員は、オフィス・アワーの実施状況及び実施方法を自ら点検し、必要に応じて改善に努めること。

(成績の通知)

第22条 学生の成績の通知を希望する父母等又は保証人がある場合は、学生の同意を得た上で通知するものとする。

- 2 成績の通知の時期は、各年度末とし、当該年度までに履修した授業科目の成績を掲載するものとする。ただし、次年度の在籍予定者に限るものとする。

(細則)

第23条 この規程に定めるもののほか、この規程の実施に必要な事項は、学長が定める。

附 則

- 1 この規程は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この規程の施行日の前日において、上越教育大学の学生として在学中の者は、この規程の施行後の上越教育大学大学院学校教育研究科履修規程（以下「施行後の履修規程」という。）第2条、第3条別表第1、第5条別表第2及び第6条別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。ただし、施行後の履修規程第6条別表第3に規定する授業科目については、履修することができる。
- 3 前項ただし書の規定により修得した単位は、修了要件30単位に算入しない。

附 則（平成16年規程第96号（平成16年6月16日））

この規程は、平成16年6月16日から施行する。ただし、第6条の2の規定は、平成17年度に入学した学生から適用する。

附 則（平成17年規程第22号（平成17年3月31日））

- 1 この規程は、平成17年4月1日から施行する。
- 2 平成16年度以前に入学した学生については、この規程による改正後の上越教育大学大学院学校教育研究科履修規程（以下「改正後の履修規程」という。）第4条、別表第2及び別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。ただし、改正後の履修規程別表第3に規定する「重複障害児教育学論」、「地域環境学特論」及び「暮らしの新素材と資源循環型社会」については、履修することができる。
- 3 前項ただし書の規定により修得した単位は、修了要件30単位に算入しない。

附 則（平成18年規程第8号（平成18年3月10日））

- 1 この規程は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 平成17年度以前に入学した学生については、この規程による改正後の上越教育大学大学院学校教育研究科履修規程（以下「改正後の履修規程」という。）別表第1及び別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。ただし、改正後の履修規程別表第3に規定する授業科目については、履修することができる。
- 3 前項ただし書の規定により修得した単位は、修了要件30単位に算入しない。

附 則（平成19年規程第16号（平成19年3月22日））

- 1 この規程は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 平成18年度以前に大学院学校教育研究科に入学した学生については、この規程による改正後の上越教育大学大学院学校教育研究科履修規程（以下「改正後の履修規程」とい

う。)第3条,第6条本文,第10条,第13条,第15条,別表第1,別表第2及び別表第3の規定にかかわらず,なお従前の例による。ただし,改正後の履修規程別表第3に規定する授業科目については,履修することができる。

3 前項ただし書の規定により修得した単位は,修了要件30単位に算入しない。

附 則 (平成20年規程第10号 (平成20年3月21日))

1 この規程は,平成20年4月1日から施行する。

2 平成19年度以前に大学院学校教育研究科に入学した学生については,この規程による改正後の上越教育大学大学院学校教育研究科履修規程(以下「改正後の履修規程」という。)第2条から第7条,第9条から第12条,別表第1,別表第2及び別表第3の規定にかかわらず,なお従前の例による。ただし,改正後の履修規程別表第3に規定する修士課程の授業科目については,履修することができる。

3 前項ただし書の規定により修得した単位は,修了要件30単位に算入しない。

附 則 (平成21年規程第2号 (平成21年2月13日))

1 この規程は,平成21年4月1日から施行する。

2 平成20年度以前に大学院学校教育研究科に入学した学生については,この規程による改正後の上越教育大学大学院学校教育研究科履修規程(以下「改正後の履修規程」という。)別表第1,別表第2及び別表第3の規定にかかわらず,なお従前の例による。ただし,改正後の履修規程別表第3に規定する修士課程の授業科目については,履修することができる。

3 前項ただし書の規定により修得した単位は,修了要件30単位に算入しない。

附 則 (平成22年規程第12号 (平成22年3月10日))

1 この規程は,平成22年4月1日から施行する。ただし,改正後の上越教育大学大学院学校教育研究科履修規程(以下「改正後の履修規程」という。)第6条及び別表第2の(2)専門職学位課程の規定は,平成22年3月10日から施行し,平成20年度に専門職学位課程に入学した学生から適用する。

2 平成21年度以前に大学院学校教育研究科に入学した学生については,改正後の履修規程第12条及び別表第3の規定にかかわらず,なお従前の例による。ただし,改正後の履修規程別表第3に規定する授業科目については,履修することができる。

3 前項ただし書の規定により修得した単位は,修士課程の修了要件30単位又は専門職学位課程の修了要件46単位に算入しない。

附 則 (平成23年規程第14号 (平成23年3月22日))

1 この規程は,平成23年4月1日から施行する。

2 平成22年度以前に大学院学校教育研究科修士課程又は専門職学位課程に入学した学生については,この規程による改正後の上越教育大学大学院学校教育研究科履修規程(以下「改正後の履修規程」という。)にかかわらず,なお従前の例による。ただし,改正後の履修規程別表第3に規定する授業科目については,履修することができる。

3 前項ただし書の規定により修得した単位は,修士課程の修了要件30単位又は専門職学位課程の修了要件46単位に算入しない。

附 則 (平成24年規程第18号 (平成24年3月30日))

1 この規程は,平成24年4月1日から施行する。

2 平成23年度以前に大学院学校教育研究科に入学した学生については、この規程による改正後の上越教育大学大学院学校教育研究科履修規程（以下「改正後の履修規程」という。）第12条及び別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。ただし、改正後の履修規程別表第3に規定する修士課程又は専門職学位課程の授業科目については、履修することができる。

3 前項ただし書の規定により修得した単位は、修士課程の修了要件30単位又は専門職学位課程の修了要件46単位に算入しない。

附 則（平成25年規程第19号（平成25年3月22日））

1 この規程は、平成25年4月1日から施行する。

2 平成24年度以前に大学院学校教育研究科に入学した学生については、この規程による改正後の上越教育大学大学院学校教育研究科履修規程（以下「改正後の履修規程」という。）第12条及び別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。ただし、改正後の履修規程別表第3に規定する修士課程又は専門職学位課程の授業科目については、履修することができる。

3 前項ただし書の規定により修得した単位は、修士課程の修了要件30単位又は専門職学位課程の修了要件46単位に算入しない。

附 則（平成26年規程第19号（平成26年3月28日））

1 この規程は、平成26年4月1日から施行する。

2 平成25年度以前に大学院学校教育研究科に入学した学生については、この規程による改正後の上越教育大学大学院学校教育研究科履修規程（以下「改正後の履修規程」という。）別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。ただし、改正後の履修規程別表第3に規定する修士課程又は専門職学位課程の授業科目については、履修することができる。

3 前項ただし書の規定により修得した単位は、修士課程の修了要件30単位又は専門職学位課程の修了要件46単位に算入しない。

附 則（平成27年規程第3号（平成27年3月2日））

1 この規程は、平成27年4月1日から施行する。

2 平成26年度以前に大学院学校教育研究科に入学した学生については、この規程による改正後の上越教育大学大学院学校教育研究科履修規程（以下「改正後の履修規程」という。）別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。ただし、改正後の履修規程別表第3に規定する修士課程の授業科目については、履修することができる。

3 前項ただし書の規定により修得した単位は、修士課程の修了要件30単位に算入しない。

附 則（平成27年規程第51号（平成27年12月24日））

1 この規程は、平成28年4月1日から施行する。

2 平成27年度以前に大学院学校教育研究科に入学した学生については、この規程による改正後の上越教育大学大学院学校教育研究科履修規程（以下「改正後の履修規程」という。）の規定にかかわらず、なお従前の例による。ただし、改正後の履修規程別表第3に規定する修士課程又は専門職学位課程の授業科目については、履修することができる。

3 前項ただし書の規定により修得した単位は、修士課程の修了要件30単位又は専門職学位課程の修了要件46単位に算入しない。

附 則（平成28年規程第23号（平成28年7月20日））

この規程は、平成28年7月20日から施行する。

附 則（平成29年規程第3号（平成29年3月1日））

- 1 この規程は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 平成28年度以前に大学院学校教育研究科に入学した学生については、この規程による改正後の上越教育大学大学院学校教育研究科履修規程の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成30年規程第10号（平成30年3月23日））

- 1 この規程は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 平成29年度以前に大学院学校教育研究科に入学した学生については、この規程による改正後の上越教育大学大学院学校教育研究科履修規程（以下「改正後の履修規程」という。）別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。ただし、改正後の履修規程別表第3に規定する修士課程又は専門職学位課程の授業科目については、履修することができる。
- 3 前項ただし書の規定により修得した単位は、修士課程の修了要件30単位又は専門職学位課程の修了要件46単位に算入しない。

別表第1（第4条関係）

専攻・コース名			教員の免許状の種類（免許教科）
修士課程	学校教育専攻	グローバル・ICT・学習研究コース 道徳・生徒指導コース 教育連携コース 臨床心理学コース	幼稚園教諭専修免許状 小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，保健，技術，家庭，職業，職業指導，英語，ドイツ語，フランス語，宗教） 高等学校教諭専修免許状（国語，地理歴史，公民，数学，理科，音楽，美術，工芸，書道，保健体育，保健，看護，家庭，情報，農業，工業，商業，水産，福祉，商船，職業指導，英語，ドイツ語，フランス語，宗教）
		幼年教育コース	幼稚園教諭専修免許状 小学校教諭専修免許状
		特別支援教育コース	特別支援学校教諭専修免許状 特別支援学校教諭一種免許状
教科・領域教育専攻	言語系教育実践コース	国語	幼稚園教諭専修免許状 小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（国語） 高等学校教諭専修免許状（国語）
		英語	中学校教諭専修免許状（英語） 高等学校教諭専修免許状（英語）
	社会系教育実践コース		小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（社会） 高等学校教諭専修免許状（地理歴史，公民）
	自然系教育実践コース	数学	幼稚園教諭専修免許状 小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（数学） 高等学校教諭専修免許状（数学）
		理科	小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（理科） 高等学校教諭専修免許状（理科）

専攻・コース名			教員の免許状の種類（免許教科）	
修士課程	教科・領域教育専攻	芸術系教育実践コース	音楽	幼稚園教諭専修免許状 小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（音楽） 高等学校教諭専修免許状（音楽）
			美術	幼稚園教諭専修免許状 小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（美術） 高等学校教諭専修免許状（美術，工芸）
		生活・健康系教育実践コース	保健体育	幼稚園教諭専修免許状 小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（保健体育） 高等学校教諭専修免許状（保健体育）
			技術	中学校教諭専修免許状（技術） 高等学校教諭専修免許状（工業）
			家庭	小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（家庭） 高等学校教諭専修免許状（家庭）
			学校ヘルスケア	中学校教諭専修免許状（保健） 高等学校教諭専修免許状（保健） 養護教諭専修免許状 栄養教諭専修免許状
専門職学位課程	教育実践高度化専攻	教育臨床コース 教育経営コース	幼稚園教諭専修免許状 小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，保健，技術，家庭，職業，職業指導，英語，ドイツ語，フランス語，宗教） 高等学校教諭専修免許状（国語，地理歴史，公民，数学，理科，音楽，美術，工芸，書道，保健体育，保健，看護，家庭，情報，農業，工業，商業，水産，福祉，商船，職業指導，英語，ドイツ語，フランス語，宗教）	

別表第2（第6条関係）

履修基準単位表

(1) 修士課程

区分	授業科目の領域	単位	摘 要
共通科目	子どもの学びとこころのケアに関する科目 教育と社会問題に関する科目 教材開発と評価に関する科目 海外教育研究に関する科目 教職実践インターンシップに関する科目	4	全専攻・コース共通とし、4単位以上を修得するものとする。
	実践場面分析演習	2	修了時において所属する専攻・コース又は専攻する科目群に開設される授業科目2単位を修得するものとする。
専攻科目	専門科目 グローバル・ICT・学習研究に関する科目 道徳・生徒指導に関する科目 教育連携に関する科目 臨床心理学に関する科目 幼年教育に関する科目 特別支援教育に関する科目 言語系教育実践に関する科目 社会系教育実践に関する科目 自然系教育実践に関する科目 芸術系教育実践に関する科目 生活・健康系教育実践に関する科目	16	全専攻・コース共通（臨床心理学に関する科目の一部は、所属する専攻・コースに限る。）とし、16単位以上を修得するものとする。
	専門セミナー	8	修了時において所属する専攻・コース又は専攻する科目群に開設される授業科目のうちから、2科目8単位以上を修得するものとする。
計		30	

(2) 専門職学位課程

区 分	授 業 科 目 の 領 域		単 位	摘 要
臨床共通科目	教育課程の編成及び実施に関する科目		20	全コース共通とし、必修科目5科目20単位を修得するものとする。
	教科等の実践的な指導方法に関する科目			
	生徒指導及び教育相談に関する科目			
	学級経営及び学校経営に関する科目			
	学校教育と教員の在り方に関する科目			
コース別選択科目	学校支援プロジェクト科目	学校支援リフレクション	16	所属するコースに開設される「学校支援リフレクション2科目8単位」と「学校支援プレゼンテーション2科目2単位」を含み、計16単位以上を修得するものとする。
		学校支援プレゼンテーション		
	プロフェSSIONAL科目			
実 習 科 目	学校支援フィールドワーク		10	<p>全コース共通とし、2科目10単位を修得するものとする。</p> <p>ただし、教育経営コースにおいて、1年制プログラムの履修を許可された者については、実習科目10単位のうち、6単位を履修したものとみなす。</p>
計			46	

別表第3（第7条関係）

1 修士課程

(1) 共通科目

領域	対象とする 専攻・コース	授 業 科 目	単位数及び授業方法等	
			必 修	選 択
子どもの 学びとこ ころのケ アに関す る科目	全専攻・コー ス	学校臨床心理実践法 特別な教育的ニーズのある子の支援		L 2 L 2
教育と社 会問題に 関する科 目		教育と人権特論 現代社会と教育連携 いのち教育論 教育課程行政特論		L 2 L 2 L1・S1 L 2
教材開発 と評価に 関する科 目		人間科学と教材開発 自然科学と教材開発 意味生成表現と教材開発		L 2 L 2 L1・S1
海外教育 研究に関 する科目		海外教育特別研究A 海外教育特別研究B 海外教育特別研究C 海外教育特別研究D 海外教育特別研究E 海外フィールド・スタディ		P 2 P 2 P 2 P 2 P 2 P 4
教職実践 インター ンシップ に関する 科目		教職実践インターンシップⅠ 教職実践インターンシップⅡ		S1・P1 S0.5・P1.5
実践場 面分析 演習	学校 教育 専攻	グローバル・ICT・学習 研究コース	S 2	
		道徳・生徒 指導コー ス	S 2	
		教育連携 コース	S 2	
		臨床心理 学コース	S 2	
		幼年教育 コース	S 2	
		特別支援 教育コー ス	S 2	
	教科 ・領 域 教科	言 語 系 教育実践 コー ス	<国語> 実践場面分析演習「国語」	S 2
<英語> 実践場面分析演習「英語」			S 2	
社 会 系 教育実践 コー ス		実践場面分析演習「社会」	S 2	

・領域教育専攻	自然系教育実践コース	<数学> 実践場面分析演習「数学」	S 2	
		<理科> 実践場面分析演習「理科」	S 2	
	芸術系教育実践コース	<音楽> 実践場面分析演習「音楽」	S 2	
		<美術> 実践場面分析演習「美術」	S 2	
	生活・健康系教育実践コース	<保健体育> 実践場面分析演習「体育」	S 2	
		<技術> 実践場面分析演習「技術」	S 2	
		<家庭> 実践場面分析演習「家庭」	S 2	
		<学校ヘルスケア> 実践場面分析演習「学校ヘルスケア」	S 2	

(2) 専攻科目

領域	対象とする専攻・コース	授業科目	単位数及び授業方法等		
			必	修	選 択
専門科目	全専攻・コース	国際理解・地域教育デザイン			L1・S1
		国際理解教育特論			L 2
		持続発展教育と地球環境問題特論			L1・S1
		総合学習カリキュラム開発特論			L1・S1
		日本語教育特論			L 2
		日本語教育演習			S 2
		総合学習科学論			L 2
		ICTを活用した教育・情報教育デザイン			L1・S1
		情報教育の授業づくり			L 2
		情報ネットワークを利用した教育と学習			L 2
		教材作成プログラミング入門			S 2
		教育工学特別演習			S 2
		フィールドアクティビティデザイン			L1・S1
		地域環境学習演習			S 2
		総合学習演習			S 2
		地域教材開発演習			S 2
		探究型教科学習デザイン			L1・S1
		算数・数学学習過程特論			L1・S1
		国語学習過程特論			L1・S1
		総合学習特論			L 2
		地域環境学習特論			L 2
		学習臨床カリキュラムデザイン			L1・S1
		学習臨床学特論			L1・S1
		造形表現学習過程特論			L1・S1
		アクティブラーニングと学習研究			L1・S1
		授業研究法特論			L 2
		現代教育方法学特論			L 2
学習支援特論			L1・S1		
カリキュラムマネジメント特論			L 2		
教科内容構成特論「総合的な学習の時間」			L 2		

	目		面接指導実習C 面接指導実習D 面接指導実習E 面接指導実習F 面接指導実習G 臨床心理実習I A 臨床心理実習I B 臨床心理実習I C 臨床心理実習I D 臨床心理実習I E 臨床心理実習I F 臨床心理実習I G 臨床心理実習II 投映法特論 学校臨床心理学特論		P 1 P 1 P 1 P 1 P 1 P 4 P 4 P 4 P 4 P 4 P 4 P 4 P 4 P 1 L 2 L 2
専門科目	臨床心理学に関する科目	全専攻・コース	臨床心理学研究法特論 教育実践評価法特論I 教育実践評価法特論II 教育心理学特論 発達心理学特論 動機づけと学習特論 応用行動分析学特論 学校社会心理学特論 学級集団心理学特論 家族・集団心理学特論 精神医学特論 心身医学特論 発達障害学特論 臨床薬理学特論		L 2 L1・S1 L1・S1 L 2 L 2 L 2 L 2 L 2 L 2 L 2 L 2 L 2 L 2 L 2
	幼年教育に関する科目		幼年教育特論 幼年教育研究 子どもの発達心理学 子ども研究の基礎 子どもの環境特論 子どもの遊び研究		L 2 L1・S1 L 2 L1・S1 L 2 L1・S1
	特別支援教育に関する科目		特別支援教育原論 特別支援教育専門演習A 特別支援教育専門演習B 視覚障害心理・生理学論 聴覚障害心理・生理学論 知的障害心理・生理学論 肢体不自由心理・生理学論 病弱心理・生理学論 視覚障害教育課程・指導法 聴覚障害教育課程・指導法 知的障害教育課程・指導法 肢体不自由教育課程・指導法 病弱教育課程・指導法 視覚障害教育臨床実習 聴覚障害教育臨床実習 知的障害教育臨床実習 肢体不自由教育臨床実習 病弱教育臨床実習 情緒障害教育総論		L 2 S 2 S 4 L 2 L 2 L 2 L 2 L 2 L 2 L 2 L 2 L 2 L 2 L 2 L 2 L 2 L 2 L 2 L 1

		言語障害教育総論	L 2
		重複障害教育総論	L 2
		発達障害教育総論	L 1
		言語障害教育臨床実習	P 4
		重複障害教育臨床実習	P 4
		発達障害教育臨床実習	P 4
		特別支援教育観察・参加	P 2
		特別支援学校教育実習	L1・P2
		特別支援教育特論 A	L 2
		特別支援教育特論 B	L 2
		障害児自立活動論	L 2
		重複障害教育特論	L 2
		重複障害心理特論	L 2
		障害者心理検査法	P 2
		特別支援教育研究法	L 2
		特別支援教育研究法演習	S 4
		聴覚障害指導法特論	L 2
		視覚障害応用教育臨床実習	P 4
		聴覚障害応用教育臨床実習	P 4
		知的障害応用教育臨床実習	P 4
		肢体不自由応用教育臨床実習	P 4
		病弱応用教育臨床実習	P 4
		言語障害応用教育臨床実習	P 4
		重複障害応用教育臨床実習	P 4
		発達障害応用教育臨床実習	P 4
言語系教育実践に関する科目		<国語>	
		国語科教育特論 A	L 2
		国語科教育特論 B	L 2
		国語科教育特論 C	L 2
		国語科教育演習 A	S 2
		国語科教育演習 B	S 2
		国語科教育演習 C	S 2
		国語学特論 A	L 2
		国語学特論 B	L 2
		国語学特論 C	L 2
		国語学演習 A	S 2
		国語学演習 B	S 2
		国語学演習 C	S 2
		国文学特論 A	L 2
		国文学特論 B	L 2
		国文学演習 A	S 2
		国文学演習 B	S 2
		漢文学特論	L 2
		書写書道特論	L 2
		書写書道演習	S 2
		日本語教育特論	L 2
		日本語教育演習	S 2
		教科内容構成特論「国語」	L 2
		<英語>	
		英語学演習	S 2
		生成文法特論	L 2
		生成文法演習	S 2
		談話文法特論	L 2
		英語文化圏文学特論	L 2

領域	対象とする 専攻・コース	授業科目	単位数及び授業方法等	
			必修	選択
専門科目	自然系教育実践に関する科目	植物学特論		L 2
		細胞学実験		P 2
地球物質科学特論			L 2	
地圏環境進化学特論			L 2	
宇宙科学特論			L 2	
物理教材研究			S 2	
化学教材研究			S 2	
地学教材研究			S 2	
生物教材研究			L 2	
理科野外観察指導原理			L 2	
理科野外観察指導事例研究			L 2	
理科野外観察指導実験			P 2	
理科野外観察指導実習 A			P0.5	
理科野外観察指導実習 B			P0.5	
理科野外観察指導実習 C			P0.5	
理科野外観察指導実習 D			P0.5	
理科野外観察指導実習 E			P0.5	
理科野外観察指導実習 F			P0.5	
理科野外観察指導実習 G			P0.5	
理科野外観察指導実習 H			P0.5	
理科野外観察指導実習 I		P0.5		
理科野外観察指導実習 J		P0.5		
	教科内容構成特論「理科」		L 2	
芸術系教育実践に関する科目	<音楽>	音楽教育研究法		L 2
		音楽科教育学演習		S 2
		総合的学習と音楽科		L 2
		総合芸術と表現活動		L 2
		音楽における心理と発達		L 1
		ソルフェージュ特論 A		S 1
		ソルフェージュ特論 B		S 1
		声楽演奏研究Ⅰ（独唱）		S 2
		声楽演奏研究Ⅱ（アンサンブル）		S 2
		声楽演奏研究Ⅲ（合唱）		S 2
		音楽劇研究		S 2
		ピアノ演奏研究Ⅰ（独奏）		S 2
		ピアノ演奏研究Ⅱ（アンサンブルを含む。）		S 2
		ピアノ演奏研究Ⅲ		S 2
		鍵盤楽器音楽史		S 2
		管楽器演奏研究（独奏）		S 2
		教育楽器研究		S 2
		器楽アンサンブル		S 2
		合奏教材研究		S 2
		指揮法研究		S 2
		作曲		S 2
		楽曲分析 A		S 2
		楽曲分析 B		S 2
		音楽劇作品分析		S 2
		日本音楽演奏研究		S 2
		音楽学特論		L 2
		音楽学演習		S 2
音楽研究法		S 2		

		和楽器演習	S 2
		民族音楽学特論	S 2
		教科内容構成特論「音楽」	L 2
		<美術>	
		美術科教育論	L 2
		美術科教育方法演習	S 2
		美術科教育教材分析演習	S 2
		美術科教育教材開発演習	S 2
		造形心理学特論	L 2
		芸術理論	L 2
		日本美術史特論	L 2
		西洋美術史特論	L 2
		工芸・デザイン論	L 1
		人物画研究	P 1
		油彩画・版画研究	P 2
		日本画研究	P 2
		塑造研究Ⅰ	P 2
		塑造研究Ⅱ	P 1
		実材研究	P 2
		視覚デザイン研究	P 2
		メディアデザイン研究	P 2
		複合造形研究	P 1
		木工芸研究	P 2
		陶芸研究	P 2
		教科内容構成特論「図画工作・美術」	L 2
		<保健体育>	
		保健体育科教育特論	L 2
		保健体育科教育演習	S 2
		保健体育科教育内容・指導論	L 2
		保健体育科教育内容・指導演習	S 2
		運動学特論	L 2
		運動方法学演習（陸上競技）	S 2
		運動方法学演習（サッカー）	S 2
		運動方法学演習（ダンス）	S 2
		運動方法学演習（水泳）	S 2
		運動方法学演習（武道）	S 2
		体育学特論	L 2
		体育心理学特論	L 2
		体育心理学実験	P 2
		体育経営学特論	L 2
		バイオメカニクス実験	P 2
		バイオメカニクス特論	L 2
		舞踊学特論	L 2
		教育保健学特論	L 2
		教育保健学演習	S 2
		教科内容構成特論「体育・保健体育」	L 2
		<技術>	
		木材加工学特論	L 2
		木材加工学実験実習	P 1
		金属加工学特論	L 2
		金属加工学実験実習	P 1
		機械工学特論	L 2
		機械工学実験実習	P 1
		電気工学特論	L 2
		電気回路特論	L 2
		電気技術実験実習	P 1
生活・健康系教育実践に関する科目			

	栽培環境特論	L 2
	情報システム工学特論	L 2
	応用情報システム工学演習	S 2
	技術科教育原理特論	L 2
	技術科教育方法特論	L 2
	技術科教育教材分析演習	S 1
	技術科教育教材開発演習	S 1
	教科内容構成特論「技術」	L 2
	<家庭>	
	家庭経営学特論	L 2
	家族関係学特論	L 2
	暮らしの新素材と資源循環型社会	L 2
	被服構成学特論	L 2
	被服衛生・機構学特論	L 1
	被服学特別実験Ⅰ	P 1
	被服学特別実験Ⅱ	P 1
	食物学特論	L 2
	食物学特別実験	P 1
	住居学特論	L 2
	住居学演習	S 2
	児童学特論	L 2
	家庭科教育学特論A	L 2
	家庭科教育学特論B	L 2
	家庭科教育論	L 2
	家庭科教育学演習	S 2
	教科内容構成特論「家庭」	L 2
	<学校ヘルスケア>	
	学校精神保健特論	L 2
	学校精神保健演習	S 2
	教育保健学特論	L 2
	教育保健学演習	S 2
	養護実践学特論	L 2
	養護実践学演習	S 2
	食品機能学特論	L 2
	食品機能学実験	P 1
	食教育特論	L 2
	食教育演習	S 2
	学校健康教育特論	L 2
	学校健康教育演習	S 2
	運動・スポーツ科学特論	L 2
	教材作成プログラミング入門	S 2
	総合学習特論	L 2
	臨床薬理学特論	L 2
	教育実地調査分析演習Ⅰ	S 2
	学校経営特論A（学校組織連携）	L 2
	学校経営特論B（学校危機管理）	L 2
	家族・集団心理学特論	L 2
	発達心理学特論	L 2
	学校カウンセリング演習	S 2
	子どもの発達心理学	L 2
	情緒障害教育総論	L 1
	特別支援教育特論A	L 2
	特別支援教育特論B	L 2
	精神医学特論	L 2

領 域	対象とする 専攻・コース	授 業 科 目	単位数及び授業方法等	
			必 修	選 択
専 門 セ ミ ナ ー	学 校 教 育 専 攻	グローバル・ICT・学習研究セミナーⅠ	S 4	
		グローバル・ICT・学習研究セミナーⅡ	S 4	
	道徳・生徒 指導コース	道徳・生徒指導研究セミナーⅠ	S 4	
		道徳・生徒指導研究セミナーⅡ	S 4	
	教 育 連 携 コ ー ス	教育連携研究セミナーⅠ	S 4	
		教育連携研究セミナーⅡ	S 4	
	臨 床 心 理 学 コ ー ス	臨床心理研究セミナーⅠ	S 4	
		臨床心理研究セミナーⅡ	S 4	
	幼 年 教 育 コ ー ス	幼年教育・教育研究セミナーⅠ 幼年教育・教育研究セミナーⅡ 子どもの発達理解研究セミナーⅠ 子どもの発達理解研究セミナーⅡ 子どもの生活環境研究セミナーⅠ 子どもの生活環境研究セミナーⅡ		S 4
				S 4
			S 4	
			S 4	
			S 4	
			S 4	
特 別 支 援 教 育 コ ー ス	特別支援教育実践学研究セミナーⅠ 特別支援教育実践学研究セミナーⅡ	S 4		
		S 4		
教 科 ・ 領 域 教 育 専 攻	言 語 系 教 育 実 践 コ ー ス	<国語>		
		国語科教育基礎研究セミナー		S 4
		国語科教育応用研究セミナー		S 4
		国語学基礎研究セミナー		S 4
		国語学応用研究セミナー		S 4
		国文学基礎研究セミナー		S 4
		国文学応用研究セミナー		S 4
		書写書道基礎研究セミナー		S 4
		書写書道応用研究セミナー		S 4
		<英語>		
		英語学基礎研究セミナー		S 4
		英語学応用研究セミナー		S 4
		英米文学基礎研究セミナー		S 4
		英米文学応用研究セミナー		S 4
		英語教育基礎研究セミナー		S 4
		英語教育応用研究セミナー		S 4
		小学校英語教育基礎研究セミナー		S 4
		小学校英語教育応用研究セミナー		S 4
		異文化コミュニケーション基礎研究セミナー		S 4
		異文化コミュニケーション応用研究セミナー		S 4
社 会 系 教 育 実 践 コ ー ス	地理学研究セミナーⅠ 地理学研究セミナーⅡ 日本史研究セミナーⅠ 日本史研究セミナーⅡ 世界史研究セミナーⅠ 世界史研究セミナーⅡ 倫理学研究セミナーⅠ 倫理学研究セミナーⅡ 宗教学研究セミナーⅠ 宗教学研究セミナーⅡ 法律学研究セミナーⅠ		S 4	
			S 4	
			S 4	
			S 4	
			S 4	
			S 4	
			S 4	
			S 4	
			S 4	
			S 4	

	法律学研究セミナーⅡ		S 4
	経済学研究セミナーⅠ		S 4
	経済学研究セミナーⅡ		S 4
	社会学研究セミナーⅠ		S 4
	社会学研究セミナーⅡ		S 4
	社会科教育学研究セミナーⅠ		S 4
	社会科教育学研究セミナーⅡ		S 4
自然系教育 実践コース	<数学>		
	代数学研究セミナーⅠ		S 4
	代数学研究セミナーⅡ		S 4
	幾何学研究セミナーⅠ		S 4
	幾何学研究セミナーⅡ		S 4
	解析学研究セミナーⅠ		S 4
	解析学研究セミナーⅡ		S 4
	数学教育学研究セミナーⅠ		S 4
	数学教育学研究セミナーⅡ		S 4
	<理科>		
	物理学研究セミナーⅠ		S 4
	物理学研究セミナーⅡ		S 4
	化学研究セミナーⅠ		S 4
	化学研究セミナーⅡ		S 4
生物学研究セミナーⅠ		S 4	
生物学研究セミナーⅡ		S 4	
地学研究セミナーⅠ		S 4	
地学研究セミナーⅡ		S 4	
理科教育学研究セミナーⅠ		S 4	
理科教育学研究セミナーⅡ		S 4	
理科野外観察指導研究セミナーⅠ		S 4	
理科野外観察指導研究セミナーⅡ		S 4	
芸術系教育 実践コース	<音楽>		
	音楽教育研究セミナーⅠ		S 4
	音楽教育研究セミナーⅡ		S 4
	音楽学研究セミナーⅠ		S 4
	音楽学研究セミナーⅡ		S 4
	声楽研究セミナーⅠ		S 4
	声楽研究セミナーⅡ		S 4
	器楽研究セミナーⅠ		S 4
	器楽研究セミナーⅡ		S 4
	作曲研究セミナーⅠ		S 4
	作曲研究セミナーⅡ		S 4
	<美術>		
	絵画教育基礎研究セミナー		S 4
	絵画教育応用研究セミナー		S 4
	彫刻教育基礎研究セミナー		S 4
	彫刻教育応用研究セミナー		S 4
	デザイン教育基礎研究セミナー		S 4
	デザイン教育応用研究セミナー		S 4
工芸教育基礎研究セミナー		S 4	
工芸教育応用研究セミナー		S 4	
美術史教育基礎研究セミナー		S 4	
美術史教育応用研究セミナー		S 4	
美術科教育基礎研究セミナー		S 4	
美術科教育応用研究セミナー		S 4	

生活・健康 系教育実践 コース	<保健体育>		
	運動方法学研究セミナーⅠ		S 4
	運動方法学研究セミナーⅡ		S 4
	体育学研究セミナーⅠ		S 4
	体育学研究セミナーⅡ		S 4
	体育心理学研究セミナーⅠ		S 4
	体育心理学研究セミナーⅡ		S 4
	保健体育科教育研究セミナーⅠ		S 4
	保健体育科教育研究セミナーⅡ		S 4
	バイオメカニクス研究セミナーⅠ		S 4
	バイオメカニクス研究セミナーⅡ		S 4
	学校保健学研究セミナーⅠ		S 4
	学校保健学研究セミナーⅡ		S 4
	<技術>		
	金属加工学研究セミナーⅠ		S 4
	金属加工学研究セミナーⅡ		S 4
	メカトロニクス研究セミナーⅠ		S 4
	メカトロニクス研究セミナーⅡ		S 4
	応用電気理論研究セミナーⅠ		S 4
	応用電気理論研究セミナーⅡ		S 4
	知識情報処理研究セミナーⅠ		S 4
	知識情報処理研究セミナーⅡ		S 4
	技術科教育研究セミナーⅠ		S 4
	技術科教育研究セミナーⅡ		S 4
	技術科教育・木材加工研究セミナーⅠ		S 4
	技術科教育・木材加工研究セミナーⅡ		S 4
	<家庭>		
	家庭経営学研究セミナーⅠ		S 4
	家庭経営学研究セミナーⅡ		S 4
	被服学研究セミナーⅠ		S 4
	被服学研究セミナーⅡ		S 4
	食物学研究セミナーⅠ		S 4
	食物学研究セミナーⅡ		S 4
児童学研究セミナーⅠ		S 4	
児童学研究セミナーⅡ		S 4	
家庭科教育学研究セミナーⅠ		S 4	
家庭科教育学研究セミナーⅡ		S 4	
<学校ヘルスケア>			
学校健康教育研究セミナーⅠ		S 4	
学校健康教育研究セミナーⅡ		S 4	
食教育研究セミナーⅠ		S 4	
食教育研究セミナーⅡ		S 4	

備考 単位数及び授業方法等の欄中「L」は講義, 「S」は演習, 「P」は実験, 実習及び実技をそれぞれ示す。

2 専門職学位課程
 (1) 臨床共通科目

領 域	対象とする コース	授 業 科 目	履修 年次	単位数及び授業方法等	
				必 修	選 択
教育課程 の編成及 び実施に 関する科 目	全コース	教育課程の編成・実施の実践と課題	1・2	S 4	
教科等 の実践的 な指導方 法に関す る科目		教科等の実践的な指導方法の実践と課題	1・2	S 4	
生徒指導 及び教育 相談に関 する科目		子ども理解，生徒指導，教育相談の実践と課題	1・2	S 4	
学級経営 及び学校 経営に関 する科目		学級経営，学校経営の実践と課題	1・2	S 4	
学校教育 と教員の 在り方に 関する科 目		学校教育と教員の在り方に関する事例研究	1・2	S 4	

(2) コース別選択科目

領 域		対象とする コース	授 業 科 目	履修 年次	単位数及び授業方 法等	
					必 修	選 択
学 校 支 援 プ ロ ジ ェ ク ト 租 借	学校支 援リフ レクシ ョン	教育臨床コー ス	教育臨床リフレクションⅠ	1	S 4	
			教育臨床リフレクションⅡ	2	S 4	
	学校支 援プレ ゼンテ ーショ ン	教育経営コー ス	教育経営リフレクションⅠ	1	S 4	
			教育経営リフレクションⅡ	1・2	S 4	
	教育臨床コー ス	教育臨床プレゼンテーションⅠ	1	S 1		
		教育臨床プレゼンテーションⅡ	2	S 1		
	教育経営コー ス	教育経営プレゼンテーションⅠ	1	S 1		
		教育経営プレゼンテーションⅡ	1・2	S 1		
プロフェ ッショナ ル科目	教育臨床コー ス	『学び合い』の授業論	1・2		S 2	
		学習デザイン論	1・2		S 2	
		勇気づけの学級づくり論	1・2		S 2	
		授業と学校の改善に向けた教育調査 の理論と実際	1・2		S 2	
		国語科授業のデザインと評価	1・2		S 2	
		算数・数学科教材開発の理論と実際	1・2		S 2	
		教科の固有性を踏まえた算数・数学 科の学習指導の理論と実際	1・2		S 2	
		理科授業デザイン論	1・2		S 2	
		幼少連携に基づく生活科の教科特性 とその存在意義	1・2		S 2	
		「子ども・芸術・学校」その実際と 課題	1・2		S 2	
		身体教育学演習	1・2		S 2	
		小学校英語授業づくり論	1・2		S 2	
		子どもを引きつける授業づくりの理 論と実際	1・2		S 2	
		道徳教育の理論と実際	1・2		S 2	
		小学校社会科授業の基礎技法	1・2		S 2	
		総合的な学習を中心とした教育課程 論	1・2		S 2	
		国際理解教育と外国語活動	1・2		S 2	
		海外教育実践研究A	1・2		P 2	
		海外教育実践研究B	1・2		P 2	
		海外教育実践研究C	1・2		P 2	
		海外教育実践研究D	1・2		P 2	
		海外教育実践研究E	1・2		P 2	
		海外実践フィールド・スタディ	1・2		P 4	
		体で学ぶ一斉指導の基礎技法	1・2		S 2	
		公立学校における宗教の取扱い	1・2		L1・S1	
		教育における権利と責任	1・2		L1・S1	
		協働的特別支援教育論	1・2		S 2	
		カリキュラム・マネジメント	1・2		L1・S1	
		協同的な学習実践論	1・2		S 2	
		中学校高等学校国語科授業づくり演 習	1・2		S 2	
		社会科授業分析論	1・2		L1・S1	
		I C Tを活用した社会科授業論	1・2		L1・S1	
		教育経営コー ス	現代の教育改革とビジョン	1・2		S 2

ス	学校文化論	1・2	S 2
	教育公務員の服務・勤務	1・2	L1・S1
	学校教育の制度と理念	1・2	L 2
	学校づくりと教育課程	1・2	S 2
	教育経営の理論と実際	1・2	L1・S1
	教育経営総合演習	1・2	S 2
	教育的学校経営の基礎技法	1・2	S 2
	『学び合い』による学校運営論	1・2	S 2
	研修デザイン論	1・2	S 2
	効果的な学校づくり論	1・2	S 2
	道德教育を核とした教育経営論	1・2	S 2
	言語活動を中核とした校内研究のデザイン	1・2	S 2
	教科主任・研究主任・指導主事の教育経営	1・2	S 2
	校内研修のための授業分析の理論と実際	1・2	S 2
	校内授業研究と運営	1・2	S 2
	幼小連携を中核とした学校運営	1・2	S 2
	総合的な学習を生かした特色ある教育課程の経営	1・2	S 2
	特別支援教育を支える学校経営論	1・2	S 2
	教育組織マネジメント	1・2	L1・S1
	教育リソースのネットワークづくり論	1・2	S 2
子どもの将来を見据えたカリキュラムデザイン論	1・2	S 2	
グローバル化と教育	1・2	S 2	

(3) 実習科目

領域	対象とする専攻・コース	授 業 科 目	履修年次	単位数及び授業方法等	
				必 修	選 択
学校支援フィールドワーク	教育臨床コース	学校支援フィールドワークⅠ（ストレート）	1		P 5
		学校支援フィールドワークⅡ（ストレート）	2		P 5
	全コース	学校支援フィールドワークⅠ（現職）	1		P 3
		学校支援フィールドワークⅡ（現職）	1・2		P 3
		学校支援フィールドワークⅠ（特別）	1		P 2
		学校支援フィールドワークⅡ（特別）	1・2		P 2

3 修士課程及び専門職学位課程共通

区分	授 業 科 目	履修 年次	単位数及び授業方法
自由 科目	博士課程進学特別セミナーⅠ	1・2	S 2
	博士課程進学特別セミナーⅡ	1・2	S 2